

会議の概要

会議名称	令和5年度 第4回能代市活力ある高齢化推進委員会
開催日時	令和5年11月20日(月) 午後6時30分～
開催場所	能代市役所 会議室9・10
出席委員 (13名)	委員長 小泉亮(地域における保健・医療・福祉関係者) 副委員長 安部美恵子(学識経験者) 委員 秋林信郎(介護保険の被保険者) 委員 芦名早苗(介護保険の被保険者) 委員 原田かほる(介護保険の被保険者) 委員 袴田光樹(介護サービス及び介護予防サービスの事業者) リモート出席 委員 松田 進(介護サービス及び介護予防サービスの事業者) 委員 村岡紘和(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 熊谷真理子(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 田口和義(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 土崎博之(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 土谷幹春(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 布川有美子(地域における保健・医療・福祉関係者)
事務局	市民福祉部 部長 今野朋実 長寿いきがい課 課長 柳谷 敬 長寿いきがい課 参事 高杉富喜子 長寿いきがい課 課長補佐 石岡 貢 長寿いきがい課 課長補佐 藤田広樹 市民福祉課 係長 市川甲太朗 長寿いきがい課 主席主査 白鳥孝広 長寿いきがい課 主査 小山内千栄 長寿いきがい課 主査 大久保明子 コンサル 2名
次第	開会 委員長挨拶 案件 (1) 計画の素案について (2) サービス量の見込みについて その他 閉会

案件

(1) 計画の素案について

発言者	質疑内容
委員	今回追加された「重点的項目」について、この3項目を選定した理由は。
事務局	これまでの本委員会において、国から示された「見直しのポイント」について説明させていただき、委員の皆様から伺ったご意見を踏まえ市で検討したところ、この3つの項目が今後の本市にとって重要な取組であると考え選定したものである。
委員	認知症施策推進大綱の5つの柱のうち「(5) 研究開発・産業促進・国際展開」について、その後の本文に説明が記載されていない。その理由を伺いたい。
事務局	この研究開発については、国が主導して進めていくものという認識であり、大綱の5つの柱の項目を記載することにとどめているが、本文への記載について検討したい。
委員	3つの重点的項目で、「認知症施策の推進」がほかの2つよりも格上げされている印象を持つがどうか。
事務局	認知症施策の推進については、高齢者の4人に1人が認知症の人、またはその予備軍とされており、介護者の多くが不安を感じている。そうした不安等をカバーし、認知症の人を含めた、国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ、支え合いながら共生社会の実現を目指したいという国の方針と照らし合わせて、本市としても「認知症施策の推進」を重点項目として挙げたものである。
委員	「災害や感染症対策に係る体制整備」について、ここでは、地域住民、自主防災組織及び福祉ボランティア団体等の協力のもとに、と記載されているが、ここで一番大切なのは自治会だと考えるが。
事務局	自治会については、自主防災組織と同じ立場に含む意味合いを持たせて記載していた。自治会の記載について検討したい。
委員	平成25年の災害対策基本法の改正があって、避難行動用要支援者名簿の作成が義務化されたが、市の取組を伺いたい。
事務局	市と協定を締結した自治会には名簿を提供しているが、要介護認定や障害の程度等、他の人に知られたくないという情報もあり、現状のところは、住所・名前・性別・連絡先の提供にとどまっている。より良い取組については、他の自治体とも情報交換しながら進めていきたい。
委員	生活支援コーディネーターの配置について、第2層の社会福祉協議会が全て引き受けて活動しているのか。
事務局	社会福祉協議会に生活支援コーディネーターの業務を委託しているが、第2層としては、地域包括支援センターと同じ本庁、北、南、二ツ井の4圏域があり、それぞれの地域において、支援ニーズや資源の把握及び通いの場の立ち上げ支援をしている。また、第1層のコーディネーターは市の職員が行っており、互いに連携をとりながら、事業を進めている。

(2) サービス量の見込みについて

発言者	質疑内容
なし	

その他

発言者	質疑内容
事務局	介護保険料算定の説明のため、委員会を1回追加開催したい。変更後の日程は、第5回を1月9日(火)、第6回を2月16日(金)としたい。